

1 学校教育目標
「志高く、夢の実現に向かって輝く生徒」を目指して、生徒一人一人と深く関わり、きめ細かい指導と支援により生徒の資質と能力を伸ばし、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。

2 本年度の重点目標
<p>1 生徒理解 「高い志を持ち、夢の実現に向かって輝く生徒」を目指す生徒像として、生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮して、きめ細かい教育を実践する。</p> <p>2 学力の向上 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善（ICTの活用等）を通じた教育により、学ぶ力を高める。</p> <p>3 豊かな心の涵養 体験活動、道德教育及び多様な活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育により道德性を養う。</p> <p>4 健やかな体の育成 健康の保持増進と体力の向上に関する教育を、授業・特別活動（学校行事や生徒会活動）・部活動等を通して行い、活力ある生活を送る基礎を培う。</p> <p>5 進路実現 探究活動等を充実させるとともに、特色ある教育活動を通して自己実現を図り、生徒の進路実現に向けて、持続可能な社会の創り手となる資質と能力を伸ばす。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌（西風、西高新聞）の内容に、学校行事の予定を盛り込む。 ・育西会（保護者会）と連携したPR活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生や地域住民の興味、関心を高めるため、西高新聞に行事予定を掲載する。 ・オープンスクールの際に育西会における交通指導及び中学生保護者との情報交換会を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、行事予定を効果的に掲載できた。特にオープンスクール案内チラシ及び当日イベント内容等を掲載したことにより、参加人数増加につなげることができた。 ・オープンスクールでは育西会保護者による相談ブースを開設した。休憩室という性質を持たせる工夫も功を奏し、来場中学保護者16名、相談件数10件と前年度より相談件数が増加した。具体的には、部活動、通学手段、入試対策、サイエンス情報科の学習活動等、多岐に渡る質問が寄せられ成果につながった。
		魅力発信の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・HPやSNS等を通じた情報発信を積極的に行う。 ・活動の様子を記録（写真・動画）し、学校HPやSNS等を活用した情報発信を更に充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の魅力発信のため、学校行事や学校生活の様子を週に一度の頻度でHPに掲載する。 ・中学生が高校生活をイメージできるように掲載文の記載を工夫する。 ・全職員が年に1回以上、HP原稿作成に携わるようにし、多角的な視点でのPR活動を展開する。 ・週に1度の頻度で、新着情報の更新を行い、情報発信を行う。 ・西高新聞で生徒の諸活動を写真入りで発信し、中学生や中学校、地域社会へインパクトのある情報発信を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HP更新は週に1度以上のペースで更新することができた。 ・付随する公式Instagramも更新を重ねることができた。 ・全職員によるHP記事作成については結果として一部の職員が担当することが多く、初期の目的を達成することはできなかった。 ・西高新聞に関しては、総務管轄であり、上記の「広報活動の充実」に記載しています。 ・西高新聞については予定通り年間3回発行することができた。 ・オープンスクール案内チラシ及び当日イベント内容等を掲載したことにより、参加人数増加につなげることができた。
	地域とつながり、地域に選ばれる学校づくり	異校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・高大、中高、小高連携の取り組みを通して魅力発信を行う。 ・参加した生徒の自己肯定感が高まるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NAIS事業、大学連携事業等を実施する。 ・探究活動の中で中高連携、小高連携を行い、成果を発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携については、NAIS事業、大学連携事業を中心に多くの県内大学と連携した体験入学や探究活動を実現できた。 ・中高連携、小高連携については、総合的な探究の時間の中間発表会の見学や夏休み期間を活用した近隣小学校への学習指導ボランティアに生徒が参加し、生徒の精神的成長にも繋げることができた。 ・課題としては、高校1年生全員が大学や専門学校に体験入学するNAIS事業の実施において、生徒の参加意欲を高めるための事前学習や指導を行う時間が不足した点が課題である。
		生徒募集の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣中学校はもとより県内の中学校と「顔の見える関係」を築き、本校志望者増加を目指す。 ・HPを通じた情報発信を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に中学校を訪問。最新情報を掲載した西高新聞を配付し、中学3年担任等と情報交換を行う。 ・HPの各学科・コース紹介ページの内容を再度検討し、特色がより伝わりやすいよう工夫する。 ・週に1度の頻度で、新着情報の更 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会には、新規の中学校も参加し本校の魅力を発信することができた。 ・オープンスクールの参加者は昨年度比100人以上となり、本校の広報活動が一定の成果につながったと評価している。 ・秋には中学生向けの個別説明会を数

				新を行い、情報発信を行う。	A	<p>日間企画したところ、好評であり、昨年度よりも多くの中学生が個別説明会に参加してくれた。興味のある部活動への体験参加なども実現することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校要覧（学校パンフレット）については、表紙のデザインを一新し、中学生が開いて読みたくなるような工夫を行った。色調の工夫や掲載写真の選定において様々な工夫を行った。 ＨＰの更新回数を増やす取り組みを行い、公式Instagramの更新回数の増加を図った。 生徒募集の工夫という点では一定の成果があったものと評価している。
		地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域（西区）の方々と連携した活動を行い、本校の存在感を高める。 生徒の地域貢献活動を通して、生徒の自己有用感、自己肯定感の向上を目指す。 地域探究活動などの本校独自の学習活動の紹介を通じて、地域に本校の魅力を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動による地域連携事業を推進し、その成果報告を地域に向けて行う。 地域の中学校との部活動交流や各種団体とのボランティア交流を積極的に行う。 文化系部活動の発表の場を地元地域に求めている。 地域探究の活動を育西会、地域住民、西区役所、中学生等に紹介する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の地域探究活動において、地域の事業所の協力を得ながら探究活動を進めることができた。 ポスターセッションによる中間発表会には地域の方にも参観いただき、御意見や御質問を受ける機会を設定することができた。 探究活動における地域課題解決に向けたテーマ設定を推奨し、バス路線の研究などを生徒が行うことができた。 部活動における地域交流についてはボランティア部、吹奏楽部、太鼓部、eスポーツ部などを中心に地域イベント等に積極的に参加することができた。 eスポーツ部においては地域イベントにてUDゲームブースを設置したボランティアに協力するなど新しい取り組みにも挑戦できた。 課題としては、学校や地域サイドが企画したイベント等に生徒が参加することが多く、主体的な意欲が基となった参加企画が少なかった点である。
	業務改善・働き方改革	I C T等を活用した業務改革	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を教職員全体で活用し、業務改善に取り組む。 保護者とのコミュニケーションツールとして学校保護者間連絡システムを有効活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議等の資料をペーパーレス化し、印刷や書類の整理に係る負担を軽減するとともに資源節約を行う。 学校保護者間連絡システムを各学年・クラスの連絡や行事予定の配信等で活用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議、運営委員会資料のペーパーレス化は年間を通して実現できた。 各校務分掌部会、各学年会、各教科会においても資料のデジタル化が一般化する状態を実現できた。 昨年度より「すぐる」による通知表の配信を実施しており、I C T化を勧めることができた。 一部の保護者から閲覧方法が分からない等の相談があったことは課題といえる。 教育情報部やI C T活用に詳しい一部の職員に業務上の負担が少なからず掛かってしまっていることは課題。
		働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務負担の平準化と職員の働き方改革に係る意識の変容を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校閉庁日及び定時退勤デーを設定する。 安全衛生委員会において、働き方改革について協議し、必要に応じて教職員への面談等を行う。 主任主事による各分掌毎の状況把握を行い、適正な業務分担を進める。 業務負担が偏っている場合は、他の部員ができる部分を洗い出し、業務の平準化を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校閉庁日を5日間設定し、定時退勤日については、定期考査ごと定時退勤日を設定し、職員も概ね定時で退勤することができた。 安全衛生委員会において、各公務分掌部や各学年の代表が参加することで業務分担の改善や各部が抱える業務上の課題を共有することができた。 特に、時間外勤務時間の超過が著しい職員が所属する部の主任・主事との面談を実施し、業務負担の平準化について検討を進めた。 時間外勤務時間については下げ止まりの状況であり、働き方改革に係る意識の向上と方策の検討を図っていく。
学力向上	わかる授業 魅力ある授業への転換	授業による学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業に集中して参加できる環境を構築するとともに学習習慣が定着するよう工夫する。 授業や学習に関する教科間の連携や共通理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上のため、研究授業旬間を設定し、他の教職員の授業を参観しやすい環境を整備する。 教科間で学習習慣の定着や基礎的・基本的な学力向上に係る取組の共有を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業旬間を実施、自身の教科のみならず、他教科の授業を参観することで、授業力向上につなげるための取組を実施できた。 また、生徒の学力向上のために引き続き学習習慣の定着や基礎的・基本的な学力向上に係る取組の効果について検証を進めていく。

		I C T 等を活用した授業改革	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を教育活動の中で日常的に活用する。 [指標：くまもと I C T 指数] Class-KI 3 0 （授業時間の 3 0 % の活用）及び Unit-KI 5 0 （単元時数の 5 0 % の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の特性に応じ端末の利活用目標を設ける。 授業での活用場面等を情報共有する機会を設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1 2 月に調査した Unit-KI において教師活用 6 8 、生徒活用 3 1 という結果であった。 授業での I C T 活用について、教職員の活用は進んでいるが、生徒の活用に関しては個人差が大きい状況である。生徒の学習活動での活用法について教職員がスキルを身に付けることが課題といえる。 多くの授業で「主体的・対話的で深い学び」つながるような取組がなされ、その中で I C T の活用が大いになされていた。
	計画的な学習指導の充実	計画的な学習指導と適正な評価	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価を意識し、単元テストや定期考査の出題内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに、各教科内で実践事例を報告し、2 学期には、教科の枠を超えて情報交換できる場を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学期末の成績算出時や授業研究旬間などを通して、教科の枠を超えたたちでの情報交換の場を設定することができた。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育	ポートフォリオの充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のキャリアを着実に積み上げ、記録に残すよう工夫し、多様な入試に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオを積み上げることの重要性について指導を充実させ、主体的な進路選択につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年部を中心にポートフォリオを積み上げることの重要性について確認する時間を設けることができた 自らを振り返るため進路関係行事等についての記録を残すよう指導し、主体的な進路選択に繋げるよう工夫している。
	一人一人の進路目標達成	進路実績	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度を上回る進路実績を実現する（進学 1 0 0 % 決定・国公立大学 2 0 名・公務員指導の充実・就職 1 0 0 % 決定）。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との計画的な面談機会を設定し、進路指導の充実を図る。 丁寧な個別添削指導・小論文指導、面接試験指導を実施する。 学力検討会を通して、教職員の共通理解を深める。 各学年の進路研修会を充実させるとともに異学年の研修会への参加を呼びかける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路面談機会の確保、全職員による小論文指導など、丁寧かつ個に応じた進路指導に力を入れた。 生徒の進路や学力、進路指導方法について、情報共有に力を入れた。 進路関係職員研修は計画通り実施できた。
		進路意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が夢や希望を持つ機会を設定する。 アカデミックインターンシップ（N A I S）及びインターンシップを更に充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の適性を考慮した N A I S 及びインターンシップを実施する。 企業と連携し幅広い受入先企業の開拓を進める。 社会で活躍する人や職業等についての講演や進路ガイダンスを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> N A I S 事業は、生徒の興味・関心や昨年度の状況を踏まえ、体験日数削減と訪問方法の工夫を行った。全体としては生徒の集中力も高まり、進路意識向上に成果をあげた。 インターンシップや進路講演会は計画通りに実施でき、生徒の進学・就職に向けた意識の向上を図ることができた。 課題としては、一部、意欲が高まらなかった生徒がいた点であり、事前指導の充実を図りたい。
	交通安全	交通事故・マナー違反をなくす	<ul style="list-style-type: none"> 重傷事故ゼロを含め、交通事故及びルール違反（ながらスマホ等）の減少に努める。 万一の事故時の対応や被害の最小化（ヘルメット着用）に繋がる意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月 1 1 日を「交通安全の日」として交通安全指導の充実を行う。 年 3 回、警察・育西会・交通委員で交通指導を行う。 交通安全集会、交通委員の取組、広報等を通して、ヘルメット着用の重要性を呼び掛け、着用への意識向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担当職員や交通委員会生徒を中心とした様々な取組の結果、交通事故が昨年同時期に比べ、大幅に減少した。交通委員のリーダー会を始め、生徒が主体的に活動する場面を多く創出することができた。 指定 2 年目を迎える交通安全に関する研究推進校の研究発表会を通して、本校に限らず、全県立高校にヘルメット着用について意識向上を図ることができた。着用率向上を目指し次年度も取り組んでいきたい。
	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 時間厳守 爽やかな挨拶 制服の正しい着こなし 	<ul style="list-style-type: none"> 時間の厳守や挨拶励行、整容面の共通認識について、生徒の主体的な取組を通して、基本的生活習慣の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会・職員により登校指導や挨拶運動を行う。 一斉形式の服装頭髪指導の回数を減らし、風紀委員と連携した取組を充実させ、不備者を減らす。 校則の見直し（改善・簡素化）を計画的に進める。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果は概ね高いが、前年度同様、望ましい生活習慣が身につけていない生徒や規範意識が低い生徒が少なからず存在しており、今後も粘り強い指導が必要。 事後指導が中心となってしまう、対応が後手に回ってしまったことが課題である。 安全、安心で落ち着いた学習環境を作るため、全職員の協力体制を基板としつつ、計画性を持って、育西会や警察等とも連携した効果的な取組を更に推進して参りたい。

	主体的・能動的言動の育成	各行事における生徒の自主性の育成、高い志しと目標を持った高校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となった行事の企画と運営を進める。特に、創立５０周年記念事業に向けて、生徒の自主的なアイデアと実行力を涵養する。 ・生徒が目標とやりがいを持ち、豊かな心を持って学校生活を送れるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした生徒主体の取組に移行するため、体育大会や創立記念祭、クラスマッチ後のアンケートを有効活用する。 ・生徒が積極的に活動できるよう丁寧な声掛けや励ましを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート結果を見ると、学校行事に関する生徒会の取組自体は高評価であるが、生徒自らが主体的に参加できたかどうかに対する評価項目の結果が低い状況。 ・生徒が主体となって参加することが重要な活動について、生徒が受動的に取り組んでいる様子が伺える点が課題。 ・次年度は、担当職員と生徒会執行部で知恵を出し合い、早めの準備と全校生徒を巻き込んでいくスキルを磨いていきたい。
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境ＩＳＯの取組推進	<ul style="list-style-type: none"> ・週３日の掃除を徹底し、校内美化に努める ・生徒と共に、「学校版環境ＩＳＯ」の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除箇所や担当の割り振りを常に見直し、掃除指導の徹底を図る。 ・学期に一度、美化コンクールを実施する。 ・生徒会と連携し、節電（移動教室時の消灯）や節水を進める。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の掃除態度や消灯状況を見ると、美化意識や環境への配慮について意識が低い生徒や行動が伴わない生徒が少なからず存在している。 ・学校行事同様、自分事として考える事ができずに他人事として捉えている生徒が多い印象を受ける。 ・学校評価アンケート結果からも掃除の取組みに関する生徒と職員間の評価にズレが生じている。
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を充実させる。特に特別支援教育及び生徒理解研修を拡充し、生徒理解に基づいた人権意識の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権や命の問題についての知識や考察を深める職員研修の充実を図る。 ・合理的配慮についての研修を行い、個別の配慮について周知する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる思春期の課題とその対処についての職員研修を実施し、発達課題を見据え、様々な課題を抱えた生徒にいかに対応すべきかについて考える機会を持つことができた。 ・生徒理解研修を２回実施し、様々な課題を抱える生徒についての理解や対応について理解を深めることができた。 ・個別の支援計画に基づいた指導及び生徒の状況に応じてＳＣ・ＳＳＷと連携して対応することができた。
	命を大切に する心を育む指導	自尊感情及び他者を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にする心の育成の充実を図る。 ・自他ともに大切にする心の育成を図る。 ・生徒および職員の心身のストレス軽減を図る。 ・担任の先生が専門家から直接アドバイスを受ける機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」とともに総合的な探究の時間や各行事を充実させ、自尊感情及び自己肯定感を高める。 ・ＳＯＳの出し方に関する教育」を各学年ともに実施する。 ・ソーシャルスキルトレーニング・アサーションスキルを充実させ、コミュニケーション能力を育成する。 ・ストレスマネジメントやリラクゼーション等の知識や技能についてカウンセリングを通じて啓発する。 ・ＳＣによるアサーション及びいじめ防止の授業を実施する。 ・西高コミュニケーションサークル（ＮＣＣ）を実施し、ソーシャルスキルの向上を図る。 ・担任のコンサルテーションを行い、配慮を要する生徒への支援力向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年でソーシャルスキルトレーニングを２回実施し、各学年の状況に沿ったプログラムに取り組むことができた。 ・新学期当初には、スクールカウンセラーによる人間関係構築のためのアサーションについて、また心のメカニズム等についての講話を各学年ともに実施することができた。 ・ＳＣやＳＳＷとの面談後には担任とのコンサルテーションを実施し、助言をいただく機会を設け、担任への支援を実施することができた。
いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率１００％ ・アンケート等を通じて、いじめの早期発見・早期解消を図る。 ・外部専門家を含めたケース会議を行い、生徒支援に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針に従い、未然防止および早期対応を着実に行う。 ・本校独自の「心のアンケート」を実施し、結果を活用する。 ・ＳＣ、ＳＳＷ、医療機関等との積極的な連携と情報交換を図り、職員・保護者の生徒理解と支援の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの訴えに対して、学年職員団が中心となり、組織的な対応を行うことができた。 ・いじめについての理解を促すために、１年生では入学当初に人権教育主任から話をする機会を得て、いじめの定義やいじめに向かわない学級風土づくりについて講話を実施することができた。 ・入学前面談を実施し、入学後も年間を通してＳＳＷによる面談や支援を計画的に実行できた。 ・それらの取り組みから、学校生活や家庭での課題に迅速に対応することができた。また、ＳＣ面談を通して医療機関につなげることができた場面も存在した。

地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	地域・保護者・関係機関等との連携	学校運営協議会の活用による地域連携の強化及び円滑化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による学校評価や魅力化、活性化に向けた取組の検証及び地域防災体制の強化を図る。 ・地域防災体制の充実に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の高大連携、中高連携、地域連携の３部会体制を推進する。年２回の全体会開催と各部会を開催する。 ・地域の方々と連携した防災・減災訓練を実施する。 ・生徒募集に関する地域や保護者から得た意見・助言を募集活動に生かす。 ・探究活動のテーマとして地域防災を主眼とした研究班をつくり、西区の地理や気候条件等を考慮した地域防災のあり方などを研究する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・より効率的、効果的な会の運営を行う観点から、学校運営協議会の部会を３部会から２部会に再編した。総合的な探究の時間に係る地域防災や本校のＰＲ活動の研究といった、地域探究発表を参観いただいての意見交換等を行い、学校の魅力創造・発信の参考となった。また部会の再編は職員の負担軽減の一助となった。 ・地域連携部会では、災害時の避難所としての学校施設設備、生徒対応等に関する意見を得ることができた。また、生徒指導的な観点から、本校生徒への関わり方について温かく褒める声かけを提案し、理解と共感を得ることができた。 ・中高大連携部会では、中学校、大学それぞれで期待される本校の学校像や生徒像を踏まえつつ、特に学校のＰＲ、探究活動の充実にについて貴重な意見をいただいた。
特色ある教育	サイエンス情報科の充実	研究活動の充実 志望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携による実習などサイエンス情報科の活動を着実に実施する。 ・発表会、コンテスト等への出場機会を増やす。 ・特色的な教育活動を積極的に中学校や地域へ発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との事前協議を綿密に行うなど活動の充実を図り、外部への積極的な情報発信を行う。 ・課題研究の進め方の改善を行い、発表会やコンテスト等への出場機会を増やす。 ・オープンスクールにおいてサイエンス情報科体験プログラムを実施する。 ・学校説明会等において地域へのサイエンス情報科の魅力を理科、数学、情報の担当者と連携し、より効果的な発信を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携による実習は、日程調整の難しさがあったが、関係大学との調整を丁寧に行い、滞りなく実施することができた。 ・１年生では、課題研究を円滑に進めるため、理科、数学、情報の各分野でミニ講座を行った。２年生では、校内でプレゼン発表を行い、１２月に開催された熊本スーパーハイスクール（ＫＳＨ）全体発表会ではポスター発表を行った。また、課題研究班の数班が科学展にも出品した。 ・オープンスクールにおいてサイエンス情報科体験プログラムを実施した。多数の中学生が参加し、科の魅力を発信することができた。 ・学校説明会の資料について、各科目の実習が１年間の流れで分かるよう、科の魅力化の視点で改良した。また、熊本スーパーハイスクール（ＫＳＨ）全体発表会に向けた学科紹介ポスターでは、最新の実績を地域へ情報発信をすることができた。
	体育・スポーツコースの充実	専攻授業・実習の充実 志望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを「する・みる・しる・ささえる」という観点から自己研鑽に努め、将来、指導的役割を担う人材の育成を目指す。 ・スポーツ活動を通して「知育」「德育」「体育」のバランスのとれた教育活動を実践し、志望者数の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを多角的視点で分析する力を養うなどスポーツを科学するという取組を大学や地域と連携し、探究活動を充実させる。 ・生徒が体験する場を設け、主体的な学習を促進する。 ・小中学校や地域スポーツクラブとの交流を進めるとともに、大会役員ボランティア等に積極的に参画する。 ・志望者数の増加に向けて、体育・スポーツコースの魅力発信のため広報活動を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から始めた保健科学大との連携は、「スポーツを科学する～専門知識の習得と実践力、幅広く共有できる人材の育成～」をテーマに各学年別の実習を行った。１・２年生で「スポーツ医科学の基礎」「下肢筋力の測定」を行い、自分の競技力向上やトレーニングを考える機会となった。主体的に活動でき、体育学科コース全国研究大会で発表することができた。 ・専攻６種目による近隣中学校との合同練習を積極的に行った。また、５０周年記念中学校剣道大会を体育館で実施した。また、１１月から各専攻担当職員による中学校訪問を実施しコースの魅力発信を行った。
	普通科の充実	取組の質的転換	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を活用した主体的で対話的で深い学びへの転換を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習成果を融合させて、新たな視点や取組を生み出す機会を増やす。 ・総合的な探究の時間等を活用し、文章作成やプレゼンテーションなど、情報活用能力を生徒に身に付けさせ、発信力を高める。 ・主体的で対話的で深い学びを意識した一人一台端末利活用の事例を各教科から報告し、情報を共有することで、自分の教科の授業改善を進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的で対話的で深い学びを意識した一人一台端末の利活用について、地歴公民科や芸術科（美術）など多くの科目で取組がなされ、生徒の学びを促進するような授業が展開されていた。 ・１２月に調査した Unit-KI において教師活用６８、生徒活用３１という結果であった。 ・授業でのＩＣＴ活用について、教職員の活用は進んでいる。が、生徒の活用に関しては個人差が大きい状況である。生徒の学習活動での活用法について教職員がスキルを身に付けることが課題といえる。

感 染 症 対 策	感 染 症 へ の 対 策	感 染 症 拡 大 防 止 対 策	・ 校内体制の充実を図り、日常的な感染未然防止の指導を適切に進める。 ・ 感染予防の対策を行うと共に、健康の保持増進について自己管理できる生徒を育成する。	・ 校内の感染拡大傾向を初期段階で把握するため、丁寧な健康観察等を行う。 ・ 感染拡大の状況に応じて、ＩＣＴを活用した教育活動を進め、学習の遅れがないよう支援する。 ・ 生徒会や保健委員会などの活動を通して、生徒による健康の保持増進について自己管理能力を高める。	B	・ インフルエンザ感染拡大傾向を初期段階で把握し、計４クラス学級閉鎖を行い、校内での感染拡大を防止することが出来た。 ・ 学級閉鎖時は、ＩＣＴを活用して適宜学習支援等を行い、教育活動の継続に取り組んだ。 ・ 感染拡大防止対策「換気、正しい手洗い、医療機関受診、咳エチケット（マスク着用等）、休養等」等について、注意喚起や呼びかけを適宜行った。 ・ 校内や地域の状況把握、学校医との情報共有、ほけんだより発行、各生徒への丁寧な対応等を行った。
-----------	---------------	-------------------	--	---	---	---

<p>4 学校関係者評価</p> <p>地域住民、行政、教育関係、保護者等の立場から幅広く意見をいただいた。</p> <p>(１) 本校の教育スローガン等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育スローガンのもと、数々の取り組みを計画・実施し、その成果と課題を示し、大いに取り組んでいると評価している。 ・教育活動について数値化できるところは数値化する取り組みを進めてもらいたい。達成度などを意識した教育活動が展開されることを期待している。 <p>(２) 生徒指導、学習指導、進路指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全と交通マナーの向上について、交通事故の大幅な減少は非常に有意義なことと考える。 ・生徒指導に関する項目がC評価となっていることについては、義務教育段階の指導に課題があった可能性もあるため情報交換を今後も行いながら、家庭とも連携し、小、中、高、家庭で連携していく必要があると感じている。 ・サイエンス情報科の課題研究が最優秀賞を受賞したのは良かった。もっとサイエンス情報科の活躍が見られることを期待している。 ・令和７年度から通学時のヘルメット着用を義務化することによって命を守ることにつながると思っている。高校生の姿が中学生にも良い影響を与えることを期待している。 ・部活動の成績は言うまでもなく、進学実績もそれなりに現れていると思われる。 ・西高といえば部活動が強いというイメージがあるが、基本的な生活習慣の確立を目指した教育活動においても率先して取り組んでいる。 <p>(３) 地域や異校種等との連携、生徒募集について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区役所と連携したイベントへの西高生の参加を検討してもらいたい。 ・地域でのボランティア活動への参加や情報発信、創立５０周年記念式典での記念講演も広報につながったと思う。 ・オープンスクールへの参加申し込みを中学校単位の申し込みから個人申し込みに変えた工夫は中学校から喜ばれたことと思う。「保護者にも参加してもらいたい」という西高からのメッセージとしても広く伝わり、親子に西高の魅力を知ってもらう機会となつてほしい。 ・KSH発表会を学校PRの機会にしてもらいたい。中学１・２年生やその保護者が多く参加し、魅力ある学校であることが伝わればよいと感じている。
--

<p>5 総合評価</p> <p>(１) 教育目標</p> <p>「『志高く、夢の実現に向かって輝く生徒』を目指して、生徒一人一人と深く関わり、きめ細かい指導と支援により生徒の資質と能力を伸ばし、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。」を教育目標として、今年度は５０周年記念式典を挙げる節目となる年を迎えるにあたり、年度当初に全職員で共通理解を図り、丁寧かつ粘り強い指導に努めてきた。</p> <p>西高アカデミックインターンシップや体育大会・創立記念祭・チャレンジウォークなど、生徒の可能性を伸ばすための各種取組は、生徒会を中心に職員・育西会（保護者）・西峰会（同窓会）・外部機関等が連携し、充実したものとなった。アンケートにおいても、生徒や保護者も比較的一定の評価を得ている。また、県指定イノベーションハイスクールや総合的な探究の時間等を中心とした探究活動等の取組において、地域や地域社会を支えている方々との直接的な交流を活性化させたことで地域社会や他者とのつながり方を身に付けた生徒が増え、主体性を持って行動することの重要性を生徒が学ぶことができた。各自の進路志望選択にも繋がっている。</p> <p>(２) 教育実践の重点と方向</p> <p>「生徒理解」については、生徒アンケートにおいて、「私は西高に入学してよかった」の質問項目に対し、過去３年間でも最も高い評価結果となった。「命を大切に作る心の育成」「人権教育が充実している」という質問項目も過去３年間で最も高い評価結果となっている。保護者アンケートにおいても「西高の先生は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる」の項目が昨年度を上回る評価結果となっている。一方で保護者アンケートでは、「西高の生徒指導（挨拶、時間を守る、服装等）は適切である」の質問項目がわずかではあるが、減少しており課題として捉えなければならない。</p> <p>「学力の向上」については、「西高は授業改善に取り組んでいる」の質問項目に対し、生徒アンケートの評価結果が過去３年間で最も低い結果となった。職員共通の課題として今後取り組みを強化していく必要がある。一方で「私は分からないことは質問するなど積極的に授業に参加している」の質問項目については過去３年間で最も高い評価結果となっておりことから生徒の授業参加意欲が低下しないよう研修に努めていかなければならない。</p> <p>「豊かな心の涵養」については、「西高では、健康や安全に関する指導が適切に行われている」「生徒指導（挨拶、時間を守る、服装等）は適切である」の項目について、生徒アンケートの評価結果が過去３年間でも最も高い結果となった。職員アンケートの結果との違いが生じているが、生徒が評価していることを前向きに捉え、今後も粘り強い指導を重ねていきたい。</p> <p>「健やかな体の育成」では、授業や特別活動（学校行事や生徒会活動）・部活動等を通して健康の保持増進と体力の向上に関する教育を行うことに取り組み、「学校行事等において、生徒が主体性を持って取り組んでいる」の質問項目が生徒アンケートにおいて、昨年度を上回る結果となった。体育大会やチャレンジウォークといった身体の育成につながる学校行事についてもコロナ禍の影響を受ける前と同規模で実施することが可能となった。</p> <p>「進路実現」では、「西高は進路目標達成のために努力している」の質問項目に対し、保護者アンケートの結果が過去３年間で最も高い評価結果となった。また、生徒アンケートにおいても「進路目標達成に向けて十分な指導を行っている」「進路関係行事が用意されている」の質問項目に対する生徒アンケート結果が昨年度を上回っていることから、引き続きキャリア教育の充実を目指した取り組みに力を入れていきたい。</p> <p>(３) 自己評価総括表</p> <p>「学校経営」では、「開かれた学校」、「地域とつながり、地域に選ばれる学校」を目指し、地域や異校種との連携、本校からの魅力発信の工夫改善を進め、オープンスクールや中学校説明会等の生徒募集に係る取組も組織的に行うことができた。その結果が、オープンスクール参加者の大幅増加につながったものと考えている。一方で志願者数の大幅増加にまではつながらなかったことは反省点として捉え、引き続き生徒募集の工夫を進めていく。一方で、業務改善のうち「働き方改革の推進」については、これまでの取組を踏まえ、更に充実した取組となるよう進めていきたい。教職員の勤務時間縮減に対する意識も変わりつつあるため、具体的な行動につながるよう工夫を重ねていきたい。</p> <p>「学力向上」では、授業においてＩＣＴを活用する点については定着しつつあるが、「主体的で対話的で深い学び」を実現するには引き続き校内での検討が求められる。また、県指定のイノベーションハイスクールとして、「教科横断的」な視点から生徒の基礎的・基本的な学力の定着や向上を目指しているが、他教科に学び、他教科と連携する取組に至っていない現状があり、授業計画、授業づくりからその実践、そして評価まで学校全体として研究を深めることが必要である。</p> <p>「生徒指導」においては、事後指導への対応が多く、基本的な生活習慣を確立させることや未然防止につながる指導が不十分であったと職員自身も振り返っており、次年度以降の課題として職員一丸となって取り組んで参りたい。</p> <p>同様に、「キャリア教育」に係る取組についても、探究活動やN A I Sといった本校の特徴的な取り組みが評価されている一方で、進路実績の向上につながっているかについては検証が必要となっている。これまでの取組について検証し、３年後やその先を見据え体系化を更に進める必要がある。</p>
--

<p>「いじめの防止」も含めた生徒間の望ましい人間関係の構築については、本校においてもケースの複雑化や多様化が見られ、未然防止と早期対応できる組織づくり及び教職員の資質向上に向けた研修の強化が必要である。</p> <p>「特色ある教育」では、サイエンス情報科や体育・スポーツコースにおいて、新たな試みにも挑戦したりすることができている。スポーツコースにおいては志願者が大幅増加が見られていることから今後につなげていくよう取組を更に進めて参りたい</p> <p>普通科においては、ＩＣＴの活用や探究活動を中心に生徒の発信力を高め、様々な学習を融合させて新たな視点や取組を生み出す機会や場面を増やそう努めた。今後はこれらの各種取組を生徒の進路実現等に効果的に結びつけられるよう関連性や順序性について研究する必要がある。</p>

<p>6 次年度への課題・改善方策</p> <p>自己評価結果を「C」とした以下の2項目についての課題と改善方策について</p> <p>(1) 基本的生活習慣の確立</p> <p>◎課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活習慣が身についていない生徒や規範意識が低い生徒が少なからず存在しており、今後も粘り強い指導が必要。 ・事後指導が中心となってしまう、対応が後手に回ってしまったことが課題である。 <p>◎改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と職員による登校指導や挨拶運動を実施する。 ・一斉形式の服装頭髪指導の回数を限定し、風紀委員と連携した取組を充実させる。 ・校則の見直し（改善・簡素化）を計画的に進める。 ・安全、安心で落ち着いた学習環境を作るため、全職員の協力体制を基板としつつ、計画性を持って、育西会や警察等とも連携した効果的な取組を更に推進する。 <p>(2) 美化、環境意識の高揚</p> <p>◎課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の掃除態度や消灯状況を見ると、美化意識や環境への配慮について意識が低い生徒や行動が伴わない生徒が少なからず存在している。 ・学校行事同様、自分事として考える事ができずに他人事として捉えている生徒が多い印象を受ける。 ・学校評価アンケート結果からも掃除の取り組みに関する生徒と職員間の評価にズレが生じている。 <p>◎改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掃除箇所や担当の割り振りを常に見直し、掃除指導の徹底を図る。 ・学期に一度の美化コンクールを通した啓発活動に力を入れる。 ・生徒会と連携した節電（移動教室時の消灯）や節水の啓発運動を進める。
